＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．２

令和６年３月１２日
農業技術センター技術普及部

標題	「つきあかり」の本格栽培に向けて優良種子を確保！

（ダイジェスト）

令和６年度から「つきあかり」の本格栽培が始まります。それに合わせて、採種栽培が行われ、優良種子が確保されました。今後、採種栽培で分かった品種特性について周知を行い、安定した栽培技術の普及を図ります。

令和６年度から「ハナエチゼン」の代替品種として、「つきあかり」の本格栽培が始まります。「つきあかり」の特徴としては、良食味多収うるち米品種であり、１穂籾数が多く屑米が少なく、全国的にも銘柄米として評価が高い品種です。

「つきあかり」採種栽培は、令和４年度からほ場準備に取り掛かかっており、生産者・ＪＡ・島根県農業振興協会・東部農林水産振興センターが各々の役割を担い栽培が始まりました。

令和５年度の栽培管理については、出芽時に暗黒条件へ長時間置くとメソコチル(中胚軸)が伸長し易いことから、育苗器に長時間置かない旨の注意喚起を行ったことで、播き直しは発生しませんでした。また、自主審査(異形株や罹病穂の抜き取り作業)の徹底を図るために、研修会の開催や報告書の提出を必須としました。その結果、異形株や罹病穂がない適切なほ場管理が行われたことで、ほ場管理の審査は合格となり、無事に収穫が行われました。

生産物については、高温登熟の影響が懸念されましたが、収穫された種子の発芽率は基準である９０％以上であり、外観品質についても問題は無かったことから、令和６年度に向けた優良種子として確保されました。

採種栽培で分かった特徴は、発芽勢が他品種に比べて低く、苗立ち不良のように見えることです(図１)。これは、「つきあかり」が大粒品種であり、吸水に時間を要するためと考えられます。そのため、右記のとおりしっかりと浸種を行うことで芽出しを揃える必要があると考えました(図２)。

～浸種のポイント～
1.水量は容積比で種籾の２倍
2.水温は 10～13℃
3.積算水温が 100℃・日

「つきあかり」は、Ｒ６年度より本格栽培が始まることから、初めて栽培する生産者は不安となることが多いと考えられます。そのため、技術普及部では、育苗時の注意すべき栽培ポイントや情報の周知などを行い、安定した栽培技術の普及を図ります。

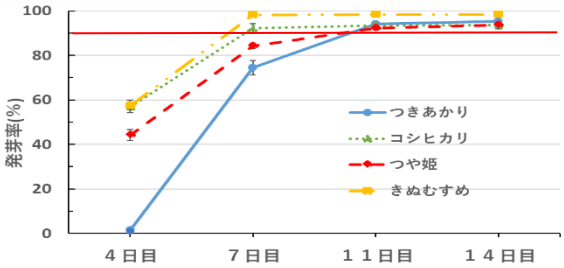

図１　品種別の発芽率
（令和５年産採種種子：シャーレ内）

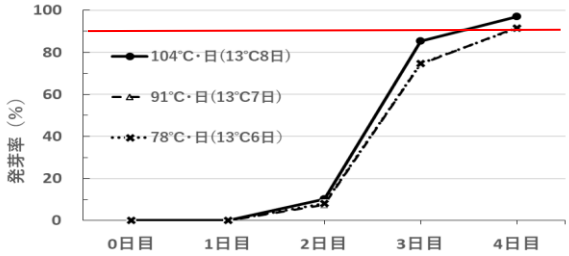

図２　浸種時間と発芽率の関係
（令和４年産「つきあかり」原種）

担当者	農産技術普及課	石田　翼	Tel 0853-22-6967